

答辞

梅の蕾がほころび始め、寒さの中にも春の息吹が感じられる今日のよき日。来賓の皆様のご臨席のもと、このような心のこもった卒業式を挙行して頂き、本当にありがとうございます。私たち本科生四二名、農業特別専攻科生十一名を代表して厚くお礼申し上げます。

私たちが入学したあの日。新型コロナウイルスの脅威の中ではありましたが、マスクを外して入学式を行いました。あの時は校歌を歌えずにいましたが、今は大きな声で歌うことができ、とても嬉しく感じます。思い返せば、真新しい制服に身を包み中央農業高校の門をくぐったあの日から、あつという間の三年間でした。

入学する前は農業について全く知らず、上手く栽培していくことができるか不安でした。しかし、様々な知識・技術を習得し、自分のやりたいことができるコースを選択することができました。

二年生からはコースごとに学習が始まりました。環境緑化コースで平板測量競技会に向けた練習をしてきました。二年生では散々な結果でしたが、三年生になり総合実習や放課後の練習はもちろん、夏休みに特別実習として今まで以上に練習を重ね、県大会では最優秀賞を勝ち取ることができ、全国大会への切符を手に入れることができました。

アイガモロボとドジョウを活用して栽培したドジョウ米。今までの取り組みをまとめて発表したお米甲子園では、グランプリを受賞することができました。中農初の中農ソース。学校で栽培した野菜を生かしたソースは大好評で即完売しました。JGAP認証農場として安定的な和牛生産に取り組んだり、優しく犬たちと触れ合ってきたりした動物科学コース。今年度はヤギ専攻が復活。様々な場所で活動し、ヤギのかわいさを県内外に広めることができました。高齢者施設を訪問し、花壇作りや押し花体験と一緒に行った園芸福祉コース。一緒に活動した利用者さんの笑顔が忘れられません。生物工学コースでは東北大学との共同研究を行ったり大学で学ぶ遺伝子の不思議について学んだりすることができました。米っ粉倶楽部とのコラボ商品、中農もちもちちみつトマトジャムパン。立山まつりでの販売実習では、多くの人に買っていただき、食品から笑顔をお届けすることができました。

高校生活は農業学習以外でも心に残る体験や行事がたくさんありました。

学年・クラスの垣根を越え、寝食を共にした寮生活。初めは新型コロナウイルスの影響もあり、パーティーションで囲まれた座席で食事をしたり談話室の利用人数が制限されていたりしましたが、昨年すべてが緩和されました。パーティーションが外れたときの皆のあの笑顔が忘れられません。また、寮生会でルールを考え解禁されたスマートフォン。以前より生活の幅が広がり、多くの寮生と交流を深めることができました。

農業に対する思いの丈を綴った意見発表会。何度も練習し、くじけそうになりながらも最後まで頑張ることができたのは、周囲の応援があったからです。

各団の皆で心一つに最高のパフォーマンスができ、高校生活初の勝利をつかむことができた体育大会。仲間との協力を学び、達成感を味わえたことは今でも私たちの活力となっています。公式戦一勝を目標に日々努力した部活動。自分たちが望む結果を得られず何度も諦めそうになりましたが、部員の皆が汗を流し頑張る姿に勇気もらい最後まで取り組むことができました。今では、三年間部活動に取り組むことができたことを誇りに思っています。

結果にとらわれないことなく、仲間と、苦勞と喜びを分かち合った様々な思い出は、私たちの成

長の証となっています。

農業特別専攻科におかれましては、担い手育成コースでは稲や野菜の栽培について基礎から学び、各々の強みを売りに販売実習を行っておられました。販売の競合相手がいなながらも完売する姿勢に、どんな厳しい状況でも最後までやりきることの大切さを学ばせていただきました。庭園コースの課題庭園では、今まで身に付けてきた技術を生かし、計画・設計・施工のすべてを全員で協力して行い、和洋折衷の池泉回遊式庭園の作成に取り組んでおられました。高い意欲を持ち常に研鑽を積まれる皆さんは私たちにとって良い刺激となりました。

在校生の皆さん、頼りない背中だったかもしれないませんが、私たちについてきてくれてありがとうございます。二年生になり、高校での初めての後輩ができたとき、「先輩」と呼んでくれるのが嬉しかったのを今でも覚えています。これからは皆さんが今まで以上に中央農業で輝く番です。辛く苦しいことが何度も訪れることでしょう。そんなときは、中農に通う仲間と力を合わせて乗り越えていってください。

そして、これまで指導して下さった先生方。高校生活では慣れないことばかりでいやになつたときもありました。そんなときも先生方は笑顔で接してくれました。時には叱って下さったり、悩んでいる私を見てずっと側で支えて下さったりした先生方にとっても感謝しています。

個性豊かで好きなことを好きだと素直にいえる三年生の皆。時には喧嘩もしたけれど、その姿は本当の自分で、受け入れてくれた友達には感謝しかありません。そんな心の友と別れてしまうのは本当に寂しいですが、皆との思い出を胸に夢にしがみついています。

そして、いつも私たちを温かく見守り、支えてくれた家族の皆。汚れた部活動のユニフォームを洗濯し新品同様にしてくれたり試合で力が出るようお願いしていたりや多くの場面で支えてくれました。本当にありがとうございます。私はこれから夢の実現に向けて新たな道を進みますが、たくさん迷惑をかけると思います。これからもよろしく願います。

思えばは尽きませんがこうして皆さんとお話ができる時間もわずかとなりました。名残惜しい気持ちでいっぱいです。それでも私たちは、この中央農業で培ったことを生かして一歩ずつ進み続けていきます。

結びに、中央農業高等学校の一層のご発展と穴田校長先生をはじめ諸先生方、そして在校生の皆さんのご健康を祈念するとともに、卒業生一同尽きることのない感謝の気持ちを込めて答辞といたします。

令和七年三月一日